

3【半導体関連産業の集積に向けた取組と熊本版サイエンスパークについて】

◆(淵上陽一君)続きまして、半導体関連産業の集積に向けた取組と熊本版サイエンスパークについてお尋ねいたします。

TSMCの本県進出決定から3年が経過し、JASM第1工場は昨年末に操業が開始され、第2工場も着工に向けて準備が進んでいます。

この3年、熊本は、国内外から大きな注目を集める存在となり、県議会においても、多くの議員が県内への波及効果や様々な課題に対する県の対応について質問され、執行部から答弁されたところです。

昨年末、九州経済調査協会は、九州全体の経済波及効果が約23兆円、熊本県だけでも約13兆円と、それぞれ過去の発表から上方修正した見通しを発表されました。

先般策定されたくまもと新時代共創総合戦略においても、世界に伍する産業拠点熊本の創出に向けて、半導体を中心とした新たな産業基盤を構築すると掲げられていますが、TSMCのサプライヤー企業をはじめとした新たな半導体関連企業の進出なども相次ぎ、さらなる半導体関連企業の集積により、半導体を中心とした強固な産業基盤が構築されることが期待されています。

その一方で、国外、県外の大手企業を誘致するだけでなく、地場の中小企業が、JASMをはじめとした進出企業と取引を開始することで事業を拡大していくことが、熊本の産業をさらに骨太にしていくために必要なことと考えます。

さらに、同じく総合戦略に掲げている熊本版サイエンスパークにも注目をしています。

本件については、昨年9月議会で我が党の坂田議員が質問された際、知事から、実現に向けて検討を進めているという前向きな答弁があり、大きな期待を抱いたところです。

世界を見渡しますと、台湾のサイエンスパークが半導体産業の成功事例として広く知られていますが、同サイエンスパークは、企業、研究機関、大学が密接に連携し、産学官連携の拠点として機能していることで、グローバル市場において競争力のある技術や製品が次々に生まれ、地域経済の成長を強力に牽引していることは、大いに参考となる事例だと考えます。

熊本県では、冒頭述べたとおり、JASM第1工場が稼働した後、半導体関連企業のさらなる集積が進んでいます。ここで一番重要なことは、この勢いをいかに持続させ、発展させるかであります。

これを一過性に終わらせず、半導体を中心とした持続可能な産業地域として発展させるため、その次なる展開として、熊本版サイエンスパークの創設は、極めて大きなインパクトを与えるものと考えます。

現在、サイエンスパークに関する検討が行われているとのことですが、本県における企業集積はもちろんのこと、有能な人材が多数集まることにより、競争力を持つ産業の基盤構築を目指すビジョンの作成及びそれを実現するための迅速で的確な行動が必要と考えますので、執行部による積極的な取組を期待し、知事に2点お尋ねいたします。

1点目は、今後、半導体産業を県経済の成長と活性化の起爆剤にしていくために必要不可欠な関連企業の集積や地場企業の活性化にいかにして取り組んでいくのか、お尋ねします。

2点目は、現在検討されている熊本版サイエンスパークについて、どのようなものになると考えておられるのか、お尋ねします。

◎知事(木村敬君) まず、1点目の半導体関連企業の集積に向けた取組についてお答え申し上げます。

令和3年11月のTSMC進出決定以降、これまで新設や増設された半導体関連企業の立地協定の締結件数は63件に上ります。その立地地域につきましても、北は荒尾から南は芦北町や錦町まで、県内各地に広がり、本県は国内最大級の、また、東アジアにも開かれた半導体製造拠点となりつつあります。

引き続き、半導体一貫生産工場の存在や半導体製造装置産業の集積といった本県の強

みを生かし、設計、材料、検査などがフルセットで立地する、国際競争力のあるサプライチェーンの構築に取り組んでまいります。

また、議員御指摘のように、国内外からの大手半導体関連企業の進出は、地場産業のさらなる活性化につながる最大のチャンスと認識しております。

TSMCの進出決定以降、国内外からの企業進出に伴い、地場企業においても活発な投資活動が行われております。

半導体関連の投資に限っても、県地場企業立地促進補助金、この認定件数は13件、投資額にして約263億円の工場の増設などが行われております。

これらの投資活動が続いていくためには、単に地場企業が進出企業のサプライチェーンに参入するだけでなく、自社の技術の特徴を踏まえた参入戦略の検討、そしてまた、参入に必要な確かな技術力を地場企業が獲得していく必要があると考えております。

県は、これまで、半導体の3次元積層実装技術の確立に向けた熊本大学と地場企業の産学連携、また、大手半導体企業との技術マッチングなどに取り組んでまいりました。それらの中から、国内外の企業が注目するような技術を開発する地場企業も実際現れてきております。

こうした支援に加えまして、令和7年度からは、専門家の技術指導などにより半導体産業への新規参入を支援するほか、セミコン台湾など国内外の展示会で地場企業と協同して技術力をPRし、地場企業の取引拡大を後押ししてまいりたいと考えております。

2点目の熊本版サイエンスパークについてお答え申し上げます。

現在、県、関係市町、企業、有識者と協議をしながら、熊本版サイエンスパークの実現に向けたビジョンの策定を進めているところでございます。

ビジョンの方向性としては、台湾の事例を踏まえつつ、熊本独自のサイエンスパークの構想を目指します。

熊本版サイエンスパークが目指す姿は、単なる企業の集積ではなくて、大学や研究機関も立地することで、産学金官の連携によるイノベーションの創出や、一番今ニーズになっていきます人材の育成、供給が持続的に行われる場でございます。

具体的には、特定の場所へ機能を集約するのではなく、複数の拠点において、必要な機能を分担し、相互に連携する分散型サイエンスパークを想定しています。

また、生活環境や交通ネットワークの拡充のほか、国家戦略特区をフルに活用して規制緩和を図り、世界一ビジネス展開のしやすい環境を整えていくことが必要です。

このような環境を整えることで、これから伸びていくAIですとか、自動運転、ロボット、遠隔診療など、近い将来に必要となる新たな産業の創出拠点になるものと期待しております。

まずは、セミコンテクノパーク周辺から熊本版サイエンスパークを展開し、テクノ・リサーチパークでの取組を進めているUXプロジェクトとの連携も見据えております。

また、交通ネットワークにおいても、中九州横断道路や西環状道路などの整備の進捗によって、県の南北を結ぶ交通アクセスの改善が、今八代市に計画しております県営工業団地にも波及するものと考えております。

加えて、九州各県において、サイエンスパークの整備が進むことが十分想定されておりますので、まず私たち熊本が先陣を切って、新生シリコンアイランド九州の実現をリードしてまいりたいと考えます。

こうした考え方を、くまもとサイエンスパーク推進ビジョンとして取りまとめ、今月末までに公表させていただきたいと思っております。

将来に必要とされる新しい産業が、ここ熊本から生み出され、お子さんやお孫さんが喜んで熊本に残り続け、また、全国、全世界から熊本が選ばれるような、世界に伍する産業拠点となるよう、全力で取り組んでまいります。

◆（淵上陽一君） 御答弁をいただきました。

本県へのTSMC進出は、九州のみならず、全国、そして世界からも熱い注目を集めております。

一昨年、知事と御一緒にブラジルとペルーを訪問した際、お会いした熊本県人会の皆様が、熊本のニュースといういつも災害のことばかりだったが、最近ではTSMCの進出で熊本が世界の半導体産業拠点になると知って大変うれしいと、涙を流しながら喜んでおられた姿は、今も忘れることができません。

半導体関連産業の集積と熊本版サイエンスパークの実現に向けて、着実に歩みを進めていただきますよう、よろしくお願いいたします。